

東京2020オリンピック 聖火リレー

本市で公募した「東京2020オリンピック」聖火リレー 聖火ランナーが決まりました。
本市では4月23日(木)に聖火が市内を駆け巡ります。



山本 祐希 さん(城南中)



稲葉 哲也 さん
村上 美記 さん(伴走)



延永 一美 さん

宇和島から世界への きっかけに

陸上競技長距離種目に取り組む山本さんは県内屈指の実力者です。小さいころから走ることが大好きで、大会では同学年の部で優勝を重ね、毎日練習に励んでいます。

聖火ランナーに応募した理由は、えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業の理念である「No Attack No Chance」の言葉に心を動かされたから。何事も挑戦しなければチャンスは生まれないと話す山本さんの目標は、全国大会に出場し世界で戦える選手になることだそうです。「聖火ランナーをきっかけに、将来はオリンピック選手を目指したい。当日は、笑顔で楽しんで走りたい」と話してくれました。



少しの手助けでできる。
その証として走りたい

鍼灸マッサージ師の稲葉さんは、全盲難聴の障がいがあります。昨年還暦を迎えて、新たな挑戦として聖火ランナーに応募したそうです。

また、視覚障害者団体のリーダーを務め「我がまちの障がい者よ頑張れ！」とエールを送り続けてきました。福祉学習では子どもたちに、少しの手助けがあれば、障がいのある人も普通に活動できることを伝えていきます。今回は、その証として走りたいと話します。

ほかにも、稲葉さんの知人でロンドンパラリンピック陸上競技に出場した井上聡さん（松野町）が、東京2020パラリンピック出場を目指して頑張っているため、激励を送りたいとも話してくれました。



皆に支えられた その絆を胸に駆け抜ける

吉田町に住む延永さんは、平成30年7月豪雨で自宅が壊滅の被害に遭いました。避難先では途方に暮れる毎日。家族や仲間からの支えがなければ、精神的に耐えられなかったかもしれないと話します。所属するバスケットチーム「オレンジクイーン」のメンバーから、励ましの言葉をかけてもらったり復旧作業を手伝ってもらったりと、たくさんの方の絆に支えられながらようやく前を向くことができました。

災害を機に改めて気付かされた家族や仲間との絆。その絆に感謝し、「地元宇和島に幸多かれ」と祈りながら元気な姿で駆け抜け、その火をつなげていきたいと意気込みを語ってくれました。



走行ルート

【と き】 4月23日(木)

【コース】 伊達博物館前～きさいや広場前

【区 間】 11区間

※本市が選考した3人のほか、スポンサーなどが選考した聖火ランナーを含め11組のランナーが聖火をつなぎます。

詳しくは、市ホームページをご覧ください。

【問合先】 文化・スポーツ課 ☎49-7033

